



JICA-SATREPS プロジェクト  
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と  
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



プロジェクトの進捗を議論する第3回合同調整委員会開催  
(2023年1月5日)

新年あけましておめでとうございます！2019年4月に開始したプロジェクトは4年目を迎え、5年間のプロジェクト期間全体で見ると、もう最終盤に差し掛かってきました。新型コロナウイルスとの闘いの中で多くの活動が延期、或いはオンラインでの実施を強いられつつも、プロジェクト実施の前から長く培ってきた両国医療関係者の関係を活かしつつ、地道に活動を維持してきました。プロジェクト最終盤に向けて、今回はこれまでのプロジェクト進捗を関係者全員で共有し、今後の計画について話し合う、第3回合同調整委員会（JCC：Joint Coordination Committee）を開催しました。



対面での参加者に加えて、オンライン参加も併せ、多くの方にプロジェクト進捗を報告できました。



今回はハノイの国立熱帯病病院に集まって実施することができ、保健省、日本国大使館からの参加も得ました。

プロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）、ハノイ医科大学、保健省 HIV/AIDS 予防局（VAAC）などのベトナム側参加者、そして日本側からは JICA 本部・ベトナム事務所はもちろん、プロジェクト実施機関である国立国際医療研究センター（NIGMS）エイズ治療・研究開発センター（ACC）や熊本大学、そして SATREPS プロジェクトの共同実施機関でもある日本医療研究開発機構（AMED）の皆様にも参加頂きました。また駐ベトナム日本国大使館や JICA から保健省に派遣されている保健省政策アドバイザーにも参加頂き、ベトナム・ハノイと日本を繋いでハイブリッド形式で実施しました。

ベトナム側プロジェクトコーディネーターである NHTD の Giang 医師とハノイ医科大学の Giang 准教授、熊本大学・滝口教授からの進捗報告の後、プロジェクト後半の重要な活動と位置付けている薬剤耐性ウイルスへの対応マニュアル（Knowledge book と呼んでいます）作りに関して NIGMS・ACC の田沼先生から活動計画が示され、参加者からプロジェクトの成果や課題に様々な助言を頂きました。プロジェクト初年度から一緒に活動している NHTD はもちろんのこと、ここ数年の成果を共有することで保健省 VAAC がプロジェクトの活動を高く評価してくれるようになったのは大変嬉しいことです。その成果をより広い地域、或いは高いレベル（政策レベル）で活かしてもらうためには保健省の関与は欠かせません。そういった意味で VAAC の活動へのコミットメントが強まったことも、2022 年の成果の一つと言えると思います。



JICA-SATREPS プロジェクト  
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と  
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



そして、5年間の本プロジェクトは間もなく4年目を終了しようとしているということで、今回会議では、今までの研究成果からどのような政策提言があり得るか、特に薬剤耐性ウイルスへの対応に関して興味深いデータが得られたことから、それを如何に今後の HIV 政策に活かしていけるかが焦点となりました。保健省からも、新型コロナが猛威を振るったこの数年間で、薬剤耐性 HIV ウイルスの状況がどう変化しているか、PrEP（曝露前予防内服）プログラムを止めてしまっている人の中に薬剤耐性 HIV ウイルスへの感染が蔓延していないか、などの懸念が示され、タイムリーに研究が行われている JICA・SATREPS プロジェクトの研究成果からの提言に期待が寄せられました。また NHTD も更なるラボ機能向上への意気込みを示し、これまた新型コロナウイルスとの闘いで改めて重要性が認識された検査能力向上にも、SATREPS プロジェクトが一役買っていることに感謝の意が示されました。

日本の新年が明けたばかり、そしてベトナムのお正月であるテト（旧正月：2023年は1月22日）を目前に実施ができた今回の JCC。これまで数年に比べると自由に活動ができるようになっている今の環境の中、プロジェクトはラストスパートに向けて、更に活動を頑張っていきたいと思います。